

# 第15回桃山学院大学図書館書評賞受賞作一覧

【最優秀書評賞】 該当なし

【優秀書評賞】 該当なし

【佳作】 該当なし

## 【総合講評】

図書館長 井上 敏 経営学部准教授

前回(2019 年度)の書評賞の講評で前図書館長の梅山先生が「愚痴めいた」と書かれたことが現実となってしまいました。結果は今回の書評賞すべての賞で該当なし、となりました。

経緯から説明しますと今回の書評賞については 38 名の応募がありました。この数字も過去の書評賞の応募からすると相当減少しています。コロナ禍の下、という理由もあるかもしれませんが、本を読み、積極的に物事に取り組む学生さんが減ってきているという点もうかがえます。

その 38 名の応募された作品から図書館委員の先生方 4 名と私で応募者の名前を匿名にした形でまず 1 次審査を行いました。その結果からすでに各委員の先生方からの評価がバラバラで、委員の間で一致して「書評」として評価できるものは殆どありませんでした。私個人の見解では文章としてはある程度読み安い文章で書かれていたものの、「書評」として評価できないものが多かった、と言えるかと思います。

「書評」とは正に字の通り、「書(本)を評(価)する」ことであり、感想文ではありません。本を評価することですから、その書評の書き手のもつ様々な教養や人生観が大きく影響すると思います。

まだ若い学生さんにそこまで要求するのは酷だと思っ一方、学生がここまで本を読まなくなってしまうということに慄然とします。この点は本学のこれからの教育を考えていく上でも重要になってくるように思います。

2 次審査については、それでも評価できるものを 5 名の審査員の得票の点数から 2 点選びました。ただこの 2 点についても委員からの評価として「佳作」までの評価しかできない、また書き改めてもらわなければならない点多々あるため、それを受け入れて修正してもらい、再提出してもらうことを前提としたものでした。この点は審査委員会で委員の先生方の合意を得たうえで、当該学生に連絡しました。しかし、結果として 2 点とも再提出されず、受賞作はなし、という結果になってしまいました。

以上が今回の書評賞の審査経緯です。今回の書評賞がこのような結果になってしまい、非常に残念でしかたありませんが、今回の結果を踏まえ、次年度以降の書評賞の在り様も含め、考えていきたいと思っています。また学生さんにはこの結果を真摯に受け止めてもらい、図書館の HP に掲載されている過去の受賞作を読んでもらって、書評とはこう書くのだということも学んでもらえればと切に願います。

## 書評とは・・・「書物の内容を批評・紹介すること。また、その文章」(広辞苑)

### <今回の募集要項>

- 応募資格** 本学学部学生、社会人聴講生、市民利用者とする(科目等履修生は除く)。
- 書評対象図書** 原則として初版出版後5年以内の本学図書館所蔵の図書とする。
- 書評の要件**
  - ①書評図書の内容の要約または概要が盛り込まれていること。
  - ②書評図書の良い点や悪い点が明示され、それに対するコメントが述べられていること。
  - ③文章の読み易さ、表記の適切さ、文章構成の確かさに留意すること。
- 応募要件(主要項目のみ抜粋)**
  - ・応募作品は応募者の独創的な書評であり、かつ未発表原稿に限る。
  - ・本文は1,500字以上2,000字程度とする。
  - ・A4版横書き、全てを1ページに収める。本文は、40字×50行の設定とする。
- 募集期間** 2021年4月下旬～2021年9月30日
- 入選発表** 2021年12月下旬
- 授賞式** 2021年12月下旬
- 応募点数** 38点
- 入選各賞**
  - ①最優秀書評賞 1篇 表彰状および副賞(図書カード1万円)
  - ②優秀書評賞 2篇 表彰状および副賞(図書カード5千円)
  - ③佳作 5篇 表彰状および副賞(図書カード3千円)

☆次年度も開催予定ですので、是非ご応募ください。(過去には連続受賞された方もいらっしゃいます。)